



今月は、「基本の重要性」と「小学校低学年の学習法」について書きました。初めて小学校に入学されたお子様を持つ保護者様にとって、お子様の学習面では不安なことばかりかと思えます。文章ばかりでお見苦しいかもしれませんが、参考にさせていただければ幸いです。

プライムキッズステーション代表 齋藤 和宏

～小学校低学年の学習法～

基本こそ奥義

私がサラリーマンだった時代、私の同僚にとあるプロ野球選手の兄がいました。彼の弟は、2000本安打を達成した知る人ぞ知る名選手でした。同僚曰く、小中学校時代は自分の方が上手く、両親からは兄の方が期待をされていたそうです。しかし、怪我をしたわけでもないのに自分はプロになる道を諦め、弟はその後ぐんぐん力を付けてドラフト7位で指名されてプロの道に進み、その後もさらに実力を上げていったそうです。その選手は最終的に25年も現役を続け、2000本安打で有終の美を飾りました。その同僚に、なぜセンスのあった君がプロの道を諦め、さほど期待されていなかった弟さんがそんなすごい選手になったのか、食事をしながら聞いたことがありました。「努力ですよ。とにかく弟は努力する人でした。自分にはそれが出来なかった、ただそれだけです。」その言葉がとても印象に残り、その時のことは今でも鮮明に覚えています。弟さんは毎朝5時に起きてランニング、素振りを欠かさなかった。雨が降ろうが炎天下だろうが毎日それをやり続けた。特に誰かに師事したわけでも、特別な対応をされたわけでもない。ただ、ひたすら基礎トレーニングを自分に課し、毎日やり続けたそうです。そしてそれを見ていた人にドラフト最終順位で指名され、結果、その球団で大きく花開いたのです。



プロのスポーツ選手がスランプに陥ったときに、基本に立ち戻るとい話はよく聞きます。練習やトレーニングの最初に、基本の動作を確認するメニューを取り入れている選手もたくさんいます。これは、基本動作がぶれているといくら練習を重ねても不安定な動きになってしまうからです。私は、勉強もこれと同じだと考えています。基本が固まっていないのに、応用問題や難しい問題をいくらやらされても出来るわけがありません。むしろ、基本が出来ていない、理解していないのに応用をやるのは無駄な時間を過ごしてしまうことになりかねません。しかし、ほとんどの親は、自分の子が学校のテストで低い点数を取ってきたり、学力テストの偏差値が思ったほどでなかったりすると、「この子は応用力が足りないのに違いない!」と考え、難しい参考書を与えようとします。ところがそれは、逆の結果を導いてしまいかねないのです。

「基本が大事って言いますが、それは生まれつき頭の良い子だから言えること。うちの子は基本だけじゃダメなんです!」塾長として生徒を指導していた時に、よく保護者様と議論になりました。焦る気持ちはよくわかりますが、その言葉にとて矛盾を感じました。出来る子だから基本でいい?出来ない子だから応用が必要?逆ですよ。おそらく、出来る子、能力のある子は基本さえやっていたら自然と応用力が身についてくる。でも、うちの子は応用力がないから応用問題や難問をやらせないと出来るようにならない、とおっしゃりたいのだと思います。しかし残念ながらそれは真逆。例えば中学校の定期テストでは、どんな中学でも100点満点中70~80点は基本問題。応用問題(難しい問題)は20~30点を占めるに過ぎません。しかし、テストの点数が50点だったからと言って、応用の20~30点にスポットライトを当て難問特訓するのはおかしいです。それは、プロ野球選手になるために子どものころからホームランを打つ練習をさせるに等しいです。まずは基本を取りこぼさないように、70~80点を目指す。そして、それがいつでもしっかり出来るようになったら、そこから更に+αを目指す。これが学習の王道、小学校~高校まで共通して言える学習の奥義なのです。

小学校の低学年では、高学年から増えてくる応用問題に対応できるように基礎を学びます。計算、図形、計量、文章題の基礎を学びます。国語であれば、平仮名、カタカナ、文の作り、漢字、読解の基礎を。当たり前のことですが、ここを省略していきなり3~4年生からスタートする生徒はまずいません。理解力、吸収力があって、基本をすぐにマスターして早取りして行く生徒はいますが、1~2年生の学習を省略する生徒は皆無です。1年生からの基礎学習につまずいてしまったからと言って、絶対に省略してはなりません。むしろ、完全に理解できるようになるまで何度も繰り返してしっかり固めていかないと、その上には何も乗っからなくなってしまいます。したがって、低学年でやっている学習をしっかり固めることは、非常に重要だと言えると思います。

低学年の今、なすべきこと

中学受験を考えている方も多くいらっしゃると思いますが、中学受験は何か違うことをしなければならぬのでしょうか。確かに入学試験で出題される内容は難しく、小学校の授業だけでは太刀打ちできないので受験塾に通いながら違った勉強が必要になると思います。しかし、低学年からそれを先取りする必要はなく、むしろそこで学ぶことがしっかり吸収できるよう、基本を固めることに傾注するべきだと思います。以上をふまえ、中学受験を目指す上で、低学年でなすべきことを列挙します。

- ①学習の習慣化・・・毎日数十分から数時間でも、何らかの学習をすることを習慣化させましょう。これは、中学受験で為すべき1日4~5時間の勉強を、いきなり高学年から始めて息切れしないためのウォーミングアップです。中学受験は、少しずつ徐々に時間を増やしていくのが鉄則です。
- ②基本の定着・・・上記にて述べました。これがないと、高学年から始めた場合に間に合わなくなってしまいます。
- ③自立心を持たせる・・・子どもが受け身に立つ指導方法ではいつまでも実力が身につきません。学習面で、自らの力で学ぶ姿勢を持たせるには、生活面でも親や家族が何でもしてあげるとい姿勢を変えなければなりません。自らの力で進もうるとき、その結果に関わらず「褒める」ことを必ず忘れないでください。時に、親は「上手に褒める」練習が必要です。
- ④好奇心をくすぐる・・・低学年では、たくさんの経験をさせてください。子どもが自ら学びたいと思う原動力は好奇心です。これが無いまま、親の言い付けで中学受験をさせても失敗します。希望する中学で何を学びたいのか、将来どうなりたいたいのか。たくさんの情報を与え、自分で行動を起こすように仕向けてください。



受験は（中学、高校、大学ともに）早くゴールしたものの勝ちの競争と思われがちですがそうではありません。如何に基礎を固めてその上に頑丈な建物を建てる事が出来るかなのです。早く建ったものの基礎の緩いビルは、少しの振動で脆く崩壊してしまいますが、基礎のしっかりした建物は多少の振動では倒れません。そこを蔑ろにしている、高層ビルは建たないどころか2階建てのお家ですら倒れてしまうかもしれません。急がば回れ。まず今為すべきこととし、基本をしっかり習得しましょう。

学受験学習スタートの低学年化は、少子化と競合に苦慮する受験塾の、親の弱みに付け込んだ戦略です。背伸びをせず、ゆっくり。いろんな経験をさせ、子ども達の好奇心を存分にくすぐる。語彙力や感受性を高め、人前で表現する力を身につけさせるため、なるべく多くの対話時間を設ける。今はそんな時期なのではないでしょうか。

～安全について～

「幼稚園バスの置き去り死亡事故」という悲しい出来事は、皆さんもニュースでご存知かと思います。どうしてそのような事が起きてしまうのか、信じられない言う方も多いと思いますが、多くの子どもたちを預かる施設では、いつどこでそのような類似事故が起きてしまってもおかしくありません。時に子どもは予想のつかない行動をします。晩ごはんの後、突然いなくなって悲しい姿で発見されたニュースも記憶に新しい出来事です。このような事故を防ぐために必要なことは、何でしょう。

- ①危険を先回りする
- ②過信しない
- ③ルーティーンを省略しない



私はこの3点が重要と考えています。突飛な行動、あり得ない行動、子どもはこれをします。そのことを肝に銘じ、「もしこんなことをしたらどうしよう」と常に考え、そうさせないこと。そして、事故は往々にして大人が安全確認を怠った瞬間に限って起こります。したがって、決まった安全確認を決して省略せず、愚直に行く。このことが大切ではないかと思います。あまり過保護になり過ぎないように、子ども達の自立を助けながら、陰でこっそり。プライムキッズの子どもは小学生ですし、バスでの置き去り事故は考え難いと過信することなく、運転スタッフ、添乗スタッフには送迎終了後の車内再確認を指示徹底いたしました。大切なお子様の尊いお命を預かる身として、これからも十分安全にプライムキッズを運営して参ります。

プライムギャラリー♪



★HAPPY BIRTHDAY!



♪Farewell!



夏休みの朝学習では終了後に頑張ったね！シール。皆勤賞もありました。お出かけイベントの後には絵日記も上手に書きました☆彡



今年の1年生はレプトン（英語）が大好き！ 集中して学習するのでどんどん進みます。単元テストも100点が続出！



キッズタイムには思い切り遊びます！

～プライムキッズからのお願い～

- 長袖、長ズボンのお着替えの準備をお願いします。スペースの関係で、上下1着ずつをお願いします。
- 持ち物類には必ず記名をお願いします。お忘れ物の所有者が分からずお返しに時間がかかってしまう場合があります。
- 予定表のご提出は必ず期限までをお願いします。②のご提出もお願いします。

プライムキッズステーション
ホームページ
<http://www.primekids.jp>



- 👁️プライムキッズ日常の様子をホームページからご覧いただけます。
- 📄ホームページから、ガイドブックや各申請書がダウンロードできます。